

情報関連機器を利用した授業方法の改善にむけて

情報処理センター 所長 湊 敏

最近、“授業方法の改善や改革”という言葉をよく耳にするようになってきた。このことは、これまでの授業方法は現在の学生を教育するための有効な手段でなくなってきたことを意味している。この原因は、大学に入学してくる学生の基礎学力の低下や学生の学ぼうとする意識の低下、さらに学生の興味の変化にあると考えられる。また、来年度からは2006年問題が起こってくる。2006年は、問題があると言われている新教育課程で教育を受けた基礎学力が不足していると思われる学生が大量に大学に入学してくる年度である。基礎学力の不足している学生をどのように教育するかは、大学教育の大きな問題になってくる。

授業方法の改善の1つとして、情報関連機器を利用した教育というものが考えられる。コンピュータの教育への利用ということを考えると、語学教育の分野が最も進んでいると考えられる。本学においても、語学教育にはコンピュータを利用したCALLシステムが有効に活用されている。現在の情報関連機器の進歩により、一般の講義科目においても情報関連機器を利用することにより色々な教材を利用することが可能になる。教材として、例えば図面、写真、映像、3次元構造物、音声、インターネットのホームページ等が考えられる。これらの教材を利用することにより、授業内容をより解り易くしたり、学生の興味を引くものにしたりすることが可能になるとと思われる。また、ネットワークを利用すれば授業時間外であっても、学生はこれらの教材を復習のために活用できる。

情報処理センターとしてはこのような状況を考えて、今年度の教育用コンピュータシステムおよび学内LANの更新にあたり、上にあげた教材を教室でも利用できるようにした。現在、プロジェクターの設置してある教室では、プロジェクターを通してコンピュータの画面を教室に表示することが可能になっている。情報関連機器の教育への利用ということについては、ハードウェア面では、十分ではないが準備は整ってきた。

情報処理センターとしては、教育に情報関連機器を有効に活用していただけるように、さらにソフトウェア面特に人的支援の充実を図ることを目指している。情報関連機器を教育に有効に利用していくには、特に利用者である先生方のご意見が重要になってくる。先生方から色々な提案をいただき、人的支援を含めて、より利用しやすい環境を構築してゆくつもりである。今後、先生方が授業方法の改善のために情報関連機器を有効に利用していただけることを期待する。